



令和6年度 第51回 市民植樹祭



日にち：令和6年5月26日（日）
場 所：稚内公園（旧稚内公園スキー場）

樹種の紹介

♣ ミズナラ

東アジアの温帯林を代表する樹種の一つです。北海道は日本の代表的な産地で、ほぼ全域に分布し、低地から山岳地まで広範囲に生育しています。

高さ25m、直径1.5mになり、樹皮は厚く、単灰褐色から暗褐色で、縦にやや深い不規則な割れ目があります。様々な動物の餌となる、どんぐりがなります。



♣ イタヤカエデ

温帯の山地にごく普通にみられる落葉広葉樹です。大きな掌状の複葉で、新葉のころ緑黄色で夏場が濃緑色、秋には黄色となります。

日本各地の公園樹、街路樹として利用されます。



♣ トドマツ

寒冷地に適用しやすく、寒冷地域でよく見られる針葉樹です。円錐形の樹形をしているのが特徴で、葉は針状で、枝に密生しています。

北海道で最も蓄積の多い樹種であり、道内人工林面積の約5割を占めています。



木製コースター

参加して頂いた方に、稚内のミズナラを加工した「木製コースター」を配布しております。

令和6年5月26日 市民植樹祭参加



スキー場跡、みどろスポP植栽

市植樹祭とL国際協会植樹祭



市民植樹祭で苗木を植える男の子



植樹する藤原地区ガバナー

稚内市主催の第51回市民植樹祭が26日、稚内公園の旧スキー場跡地で行われ、参加した市民はミスナラなどの苗木182本を植栽した。

参加した南RCや稚内RC、山本建設など10団体と個人合わせて61人を前に、工藤市長が「この街の緑化の推

進、緑と共存することによる環境保全などを求めて毎年、市民植樹祭を開催していますが多くの皆さんに参加し

たい。将来に亘って緑豊かな街を残していきたいようにしていきたい」などと挨拶した。

朝から晴れ間が広がったとはいえ、冷たい風が吹く中、参加者はスコップを使って旧スキー場跡地に設けた400平方メートルの斜面にミスナラ68本、イタヤカエデ52本、トドマツ62本の苗木を「大きく育ててね」と願いを込めて植えていた。

ライオンズ国際協会331-B地区第70回地区年次大会で市に贈

呈された記念アクティビティの植樹会が26日みどりスポーツパークで開かれ、稚内北斗ライオンズクラブ、稚内ライオンズクラブの会員らが赤エゾマツを植えた。

4月20日に開催された大会での「環境保護は子孫に対する奉仕になる」との地区ガバナースローガンとして実行されたもので、晴天が広がった26日、LC2団体、市教職員30人が参加した中、地区ガバナーを務めている藤原回向さんが「未来の子供に対し、憩いの場となるよう思いを込めて植樹して頂きたい。

木と共に街が大きく発展することを願っております」などと挨拶した。

このあと、会員らはスポーツパークの外周の一角を囲うように30本の赤エゾマツを植えた。